

No. 002

言語の構造一般

言語の類型



別府大学文学部国際言語文化学科
准教授 篠崎 大司

本セクションの目的

例えば日本語教育では、学習者を「漢字圏学習者」と「非漢字圏学習者」に区別することがあります。母語に漢字を持つか否かで日本語学習に大きな違いが出るためです。このように、日本語を学ぶ学習者は、彼らの持つ言語的背景によって、その学び方や学ぶスピードが異なり、日本語教師もそれを踏まえたうえで教育を提供する必要があります。

本セクションでは、言語類型論の立場から、言語のさまざまなタイプすなわち類型について概観します。

世界の言語事情

この地球上には6000前後の言語が存在するといわれています。仮に6000とすると、世界には193の国（総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所）がありますから、概ね一国あたり31の言語が存在するというのが、世界の常識ということになります。一つの社会の中に複数の言語が存在する社会を**多言語社会**と言いますが、実際、世界には2か国語以上の公用語を持つ国が多くあります。そう考えると、日本のように日本語という一言語で国内全域をカバーできる国というのは、むしろ特異なケースと言えます。

主な多言語国家（東(1997)p. 16より抜粋）

国名	言語
アフガニスタン	パシト語、ダリ・ペルシア語
ベルギー	オランダ語、フランス語、ドイツ語
ボリビア	スペイン語、アヤマラ語、ケチュア語
カメルーン	フランス語、英語
カナダ	フランス語、英語
フィンランド	フィンランド語、スウェーデン語
ハイチ	ハイチ・クレオール語、フランス語
アイルランド	アイルランド語、英語
シンガポール	中国語、マレー語、タミール語、英語
スイス	ドイツ語、フランス語、イタリア語

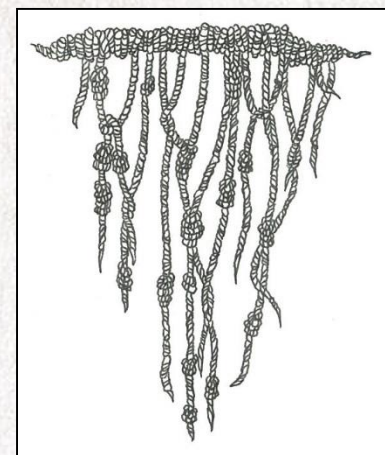
言語の多様性と普遍性

地球上に6000もの言語があるということは、同時に言語というものがそれだけ多様な可能性を持っているということを意味します。言語の持つこうした側面を**言語の多様性**と言います。

例えば、インカ帝国を作ったケチュア族はもともと文字文化を持っていませんでしたが、代わりに「キープ」と呼ばれる縄の結び目が文字としての役割を果たしていたとされています。また、オーストラリア先住民のラーディル語は、200語程度しかない語彙で日常会話に必要な概念をすべて表現すると言います（ステューブン・ピンカー(1995)p. 51）。さらに、日本語は判断・表現主体の主観的側面を表わすモダリティ表現が高度に文法化された言語であるといわれています（益岡(1991) p. 30）。

一方で、言語が言語として成立するために保持しておかなければなら必須要素というものもあるはずです。

例えば、すべての言語はどれも主語、目的語、述語（動詞）という文成分を持っていることがわかっています。また、文字を持たない言語はあっても、音声を持たない言語はありません。こうしたすべての言語が共通して持っている言語の性質を**言語の普遍性**と言います。



「キープ」

危機言語

以上のように、多くの言語が地球上に存在する一方で、近い将来その言語の使い手を失うことで消滅していくことが予想される言語というのもあります。こうした言語のことを**危機言語**と言います。

この点について、スティーブン・ピンカー(1995)は以下のように報告しています。

- (1) 言語学者のマイケル・クラウスの推定によると、北米先住民の言語で現在残っているものの約八〇パーセントにあたる一五〇の言語が、消滅しかかっているという。ほかの地域でも、クラウスの推定は厳しい。消滅しかかっている言語は、アラスカとシベリア北部で四〇（現存する言語の九〇％）、中南米で一六〇（二三％）、ロシアで四五（七〇％）、オーストラリアで二二五（九〇％）、全世界ではおそらく三〇〇〇（五〇％）に上るといふ。話し手の数が多いという理由（たとえば、最低でも一〇万人）で、まず大丈夫とみなせるのは、約六〇〇言語にすぎない。これらについても、短期的に見てさえ絶対安全という保証があるわけではないし、話し手の数を根拠にする楽天的な推定でさえ、二一世紀には、世界の言語総数の九〇％にあたる三六〇〇～五四〇〇の言語が絶滅の危機にさらされるという。

この構図は、現在、これほど大規模ではないが進行中の、動植物種の絶滅を連想させる。理由も共通する部分がある。動植物と同様に言語も、話し手の生息環境が破壊されれば絶滅する。ジェノサイド、同化の強制や同化教育、人口移動による埋没、電子メディアの総攻撃（クラウドにいわせれば「文化的神経ガス」）も、絶滅の原因になる。
(p. 49)

日本においても、アイヌ語や琉球諸語（奄美語、国頭（くにがみ）語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語）、八丈語が危機言語としてUNESCOに指定されています。詳しくは、下記サイトをご覧ください。

(2) UNESCO Atlas of the World' s Languages in Danger

<http://www.unesco.org/culture/languages-atlas/index.php>

一つの言語を失うということは、その言語の使い手であった民族が長い年月を通じて培ってきた文化体系を丸ごと失うということを意味します。

従って、危機言語を救うことは、言語の持つ多様性と普遍性の保持のみならず、再生かつ代替不可能な一文化体系を確実に後世に伝えるという意味においても、非常に意義のある活動と言えるのです。

言語類型論

言語類型論（タイポロジー）とは、多種多様な言語を、それらの持つ形式的特徴に基づいて分類することによって、言語の多様性と普遍性を追究する学問分野です。日本語教育学会(2005)では、以下のように定義されています。

- (3) 言語類型論(linguistic typology)は、音韻・形態・統語を含む言語の構造的特徴に関して、世界の言語間にどのような共通性がありどのような変異が見られるか、またそこからどのような一般化が可能かを、多言語のデータベースに基づいて明らかにしようとする学問分野である。(p. 561)

では、このような知識を持つことは、日本語教師にとってどのような意味があるのでしょうか。言語の多様性についての知識、例えば、英語と日本語では語順が異なるという知識があれば、英語を母語とする学習者はまず日本語の語順に違和感を覚えるということを知ることができ、それを踏まえた上で授業を準備し、結果として学習者の感性にフィットした授業を展開することができるでしょう。また、言語の普遍性についての知識、例えば、英語にも日本語にも新情報と旧情報という概念があるという知識があれば、外国人にとって習得が難しい「は」と「が」の使い分けを、「a」と「the」の使い分けとリンクさせて指導するという発想も生まれてくるわけです。

言語構造からみた言語の類型

初期の類型論における代表的な学者にシュレーゲルとフンボルトがいます。シュレーゲルは、言語を形態上の違いから接辞型、屈折型、無変化型の3種に分類しました。さらに、フンボルトは、言語を**孤立語**、**膠着語**、**屈折語**、**抱合語**の4種に分類しました。

孤立語とは、語彙が文中で変形することなく、それぞれが独立して並ぶことによって文を形成する言語のことをいいます。代表的な言語としては、中国語、チベット語、ビルマ語、ベトナム語などがあります。(4)を見てください。

(4) 我爱你。

(4) は中国語で「私はあなたを愛しています。」という意味の文ですが、「私」を表す「我」、「愛しています」を表す「爱」、「あなた」を表す「你」が、それぞれ形態を変えずに独立して文を形成しています。このような言語を孤立語というわけです。

膠着語とは、自立語の語幹に接辞がついたり、自立語同士を付属語がつなげることで文を構成する言語のことをいいます。代表的な言語としては、日本語、韓国語、モンゴル語などがあります。(5)を見てください。

(5) 私はあなたを愛しています。

日本語の場合、「私」の後ろに助詞(=接辞)「は」がつくことによって「私」が主語であることを表しつつ、後続の「あなた」と連結しています。同様に、「あなた」の後ろに助詞(=接辞)「を」がつくことによって「あなた」が目的語であることを示しつつ、後続の「愛しています」と連結しています。「膠着語」の「膠」とは「にかわ」すなわち接着剤という意味。つまり、膠着語とは、自立語を助詞(=接辞)がまるで接着剤のようにくっつけることによって形成される言語という意味なのです。

屈折語とは、語彙が文中で変形することで文中の成分を表す言語のことをいいます。代表的な言語としては、英語、ギリシャ語、ラテン語、サンスクリット語などがあります。(6)を見てください。

(6) love (名詞、動詞) -lovely (形容詞) -lovelily (副詞)

英語の場合、(6)のように語形が変化することによって品詞が変わり文中での成分が変わります。まさに語の末尾がさまざまに変形(=屈折)するところから、その名がつけられたものと思われれます。

抱合語とは、文を構成する各要素が密接に結合することによって、全体がまるで一語のようになっている言語のことをいいます。代表的なものとして、

アイヌ語、アメリカインディアン語などがあります。これについてリンゼイ・J・ウェイリー(2006)は、(7)のようにアメリカ南ティワ語の例を紹介しています。

- (7) In-khwian-wia-che-ban seuanide-ba
 一致-犬-与える-受動態-過去 男-具格
 「その男は私にその犬をくれた」(p. 134)

以上が、言語の4分類です。

ただ、ここで注意すべきは、こうした分類は必ずしも決定的なものではなく、あくまでも「そういう傾向が強い」という観点による緩い分類に過ぎないということです。例えば、英語の「I love you.」は文構造から言えば中国語のそれと同様、孤立語的構造です。また、日本語においても「白(しろ)-白(しら)む-白(しろ)い」のように、屈折語的な特徴も持っていますし、「明日、どっか行く？」のように助詞を省いて孤立語的に表現することも可能です。さらに、中国語には「的」という、日本語の助詞「の」に近い助詞が存在します。なお、フンボルトによるこうした分類に基づいた類型論を**古典的類型論**とといいます。

また、フンボルトの頃は歴史的観点からのアプローチによる**通時的研究**であった類型論も、その後**ブルムフィールド**らによって、同時期の諸言語の分析を主とした**共時的研究**へと転換していきました。

語順からみた言語の種類

すべての言語は、他動詞文であれば必ず主語 (Subject : S)、目的語 (Object : O)、動詞 (Verb : V) を持っています。そして、これらの要素がどのような順番に並ぶことによって文を構成するか、すなわち**語順**によって分類することができます。理論上は6通りの順列があり、事実6通りに対応した言語があるわけですが、実際は「主語－目的語－動詞」 (**SOV言語**)、「主語－動詞－目的語」 (**SVO言語**)、「動詞－主語－目的語」 (**VSO言語**) の3種がほとんどです。

SOV言語の代表的なものとしては、日本語、韓国語、ヒンディー語などが、SVO言語の代表的なものとしては、中国語、英語、タイ語などが、VSO言語の代表的なものとしては、アイルランド語、アラビア語、ヘブライ語などがあります。

以上のことから考えると、韓国語は日本語と同じ膠着語でなおかつ語順も同じということから、韓国人学習者にとっては、日本語は比較的学びやすい言語であるということが言えるわけです。

基本的な構成要素順序の頻度
(リンゼイ・J・ウェイリー
(2006)p. 88)

語 順	言 語	
	数	比率 (%)
SOV	180	45
SVO	168	42
VSO	37	9
VOS	12	3
OVS	5	1
OSV	0	—
合 計	402	

普遍性の種類

これまで、言語の種類を言語構造と語順という2つの観点から見てきました。例えば、言語を語順という尺度で分類できるということは、「言語はすべて主語、目的語、動詞という要素を持つ。」という普遍的な性質があるということの意味しています。

言語の普遍性には、すべての言語に共通してみられる**絶対的普遍性**と、多少の例外はあるものの大多数の言語に共通してみられる**非絶対的普遍性**という2つの種類があります。リンゼイ・J・ウェイリー(2006)は、前者の例として(8)を、後者の例として(9)を紹介しています。

- (8) a. 全ての言語は子音と母音をもつ。
 b. 全ての言語は名詞と動詞の区分をする。
 c. 全ての言語は疑問を表す手段をもつ。(p. 36)
- (9) a. ほとんどの言語は[i]という母音をもつ。(英語のfeetのように。)
 b. ほとんどの言語は形容詞を持つ。
 c. 多くの言語はイエスかノーかという疑問文を表すのに上昇調のイントネーションを使う(例:「第2章は読んで面白かったですか?」のようにイエス/ノーで答えることを予期するような質問)。

さらに、言語の普遍性には**含意的普遍性**というものがあります。含意的普遍性とは、ある特徴を持つ言語がその特徴に付随して別の特徴も同時に持つことをいいます。

例えば、含意的普遍性には以下のようなものがあります。

- (10) a. グリーンバーグの普遍性 4 : 偶然をはるかに超える頻度で、SOVの基本語順を持つ言語は後置詞を持つ。

(リンゼイJ. ウェイリー『言語類型論入門』岩波書店 p. 37)

後置詞とは、名詞の直後につく接辞で、日本語の助詞がそれにあたります。つまり、SOV（主語－目的語－動詞）の語順という特徴を持つ言語は、それだけでなく、ほぼそれにくっついて後置詞を持つという特徴も含み持っているわけです。これは、たとえば言えば、とんかつ定食。とんかつ定食の特徴は、もちろん「とんかつがある」ことですが、たいていのとんかつ定食には、偶然をはるかに超える頻度でキャベツの千切りが添えられています。つまり、とんかつ定食はとんかつがあるという特徴に加え、キャベツの千切りがあるというおまけの特徴も含み持っているわけです。これを含意的普遍性といいます。

漢字圏学習者と非漢字圏学習者

類型論の観点からは若干それますが、日本語教育の現場では、漢字の習得が日本語の習得全体に大きく影響を及ぼすことから、学習者を**漢字圏学習者**と**非漢字圏学習者**に分けて考えることがあります。

漢字圏学習者とは、母語に漢字を持つ学習者のことを言い、非漢字圏学習者とは母語に漢字を持たない学習者のことを言います。

一般に、漢字圏学習者は中国語圏学習者（中国本土、台湾など）や韓国人学習者を指し、それ以外の学習者を非漢字圏学習者と呼んでいます。

しかし、韓国人学習者の場合、韓国の教育制度の変化などにより、漢字圏学習者といっても世代によって習得している漢字数にばらつきがみられ、特に若い世代においては非漢字圏学習者に比較的近い状態ともいわれています。

一方、ベトナム人学習者の場合、非漢字圏とはいうものの、母語であるベトナム語が中国語の影響を強く受けているため、他の非漢字圏学習者よりも漢字語彙の習得が速いと言われています。

従って、漢字圏学習者と非漢字圏学習者が混在するクラスにおいては、漢字指導を中心に、さまざまな教育的配慮が必要になります。

言語間距離

先に韓国語は日本語に近い言語であると述べました。言語構造や語順の点からいえば、例えば英語は韓国語に比べると日本語から遠い言語であるといえることができます。もちろん、言語構造や語順だけでなく、音韻体系や語構成といったより多くの面を考慮すれば、より正確に判断できることはいうまでもありません。

このように、言語の様々な特徴から総合的に判断した、2言語間の類似度を**言語間距離**といいます。つまり、言語間距離が近ければ近いほど、学習者にとっては学習しやすい言語であるといえることができます。

この言語間距離という概念は、日本語教師が現場で教育活動を行う際、学習者の母語と日本語の違いを事前に理解しておくことが教育上非常に有効である、ということを示唆しています。

以上、言語の類型について見てきました。

私たちは、言語というものを得てして自分の母語を基準に考えてしまいがちです。それは当然のことで、それだけ私たちは言語的にかなり母語に束縛されて生きていることを意味します。

しかしながら、さまざまな言語圏の学習者を相手にする日本語教師にとっては、言語をより客観的に見るためも、言語というものをより高い位置から俯瞰する視点を持つということも大切です。

「あの学習者の母語はこれで、類型論的に日本語とここがこう違うから、こういうふうに説明してあげると、わかってくれるかな。」

そんなふうに考えながら授業の準備をして、その通りに授業がうまくいって、学習者から「よくわかりました。」なんて言われたらかなり嬉しいものです。

皆さんも、“かゆいところに手が届く” いい教師を目指してくださいね。

【道場破り！－模擬問題】

問題1 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

初期の類型論における代表的な学者にシュレーゲルと〔(ア)〕がいる。シュレーゲルは、言語を形態上の違いから接辞型、屈折型、無変化型の3種に分類した。

さらに、〔(ア)〕は、言語を(A)“孤立語”、膠着語、屈折語、抱合語の4種に分類した。

孤立語とは、語彙が文中で変形することなく、それぞれが独立して並ぶことによって文を形成する言語のことをいう。

膠着語とは、自立語の語幹に接辞がついたり、自立語同士を(B)“付属語”がつけ合わせることで文を構成する言語のことをいう。

屈折語とは、語彙が文中で変形することで文中の成分を表す言語のことをいう。

抱合語とは、文を構成する各要素が密接に結合することによって、全体がまるで一語のようになっている言語のことをいう。

ただ、ここで注意すべきは、(C)“こうした分類は必ずしも決定的なものではなく、あくまでも「そういう傾向が強い」という観点による緩い分類に過ぎないということである。

なお、〔(ア)〕によるこうした分類に基づいた類型論を〔(イ)〕という。

問1 本文中〔(ア)〕に入る言葉を、次の1～4の中から1つ選べ。

- 1 フンボルト
- 2 ソシュール
- 3 サピア
- 4 ヤコブソン

問2 本文中(A)に当てはまらない言語を、次の1～4の中から1つ選べ。

- 1 中国語
- 2 ビルマ語
- 3 ベトナム語
- 4 モンゴル語

問3 本文中(B)について、日本語でこの機能を担っている品詞は何か。

- 1 名詞
- 2 助動詞
- 3 助詞
- 4 動詞

問4 本文中(C)について、日本語に見られる屈折語的言語現象の例として正しいものはどれか。

- 1 私-あなた-彼
- 2 白-白む-白い
- 3 あげる-もらう-くれる
- 4 国際的-国際性-国際人

問5 本文中〔(イ)〕に入る言葉を、次の1~4の中から1つ選べ。

- 1 共時的類型論
- 2 革新的類型論
- 3 形態的類型論
- 4 古典的類型論

問題2 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

言語の普遍性には、すべての言語に共通してみられる(A)“絶対的普遍性”と、多少の例外はあるものの大多数の言語に共通してみられる非絶対的普遍性という2つの種類がある。

さらに、言語の普遍性には〔(ア)〕というものがある。〔(ア)〕とは、ある特徴を持つ言語がその特徴に付随して別の特徴も同時に持つことをいう。例えば、ほとんどのSOV言語は後置詞(日本語で言えば助詞。例:「ラーメンを」の「を」)を、また、ほとんどのSVO言語は前置詞(英語のinやatなど。)を持っており、例外はほとんどないと言われている。

問1 本文中(A)に当てはまらないものを、次の1~4の中から1つ選べ。

- 1 子音と母音をもつ。
- 2 名詞と動詞の区分をする。
- 3 形容詞を持つ。
- 4 疑問を表す手段をもつ。

問2 本文中〔(ア)〕に入る言葉を、次の1～4の中から1つ選べ。

- 1 包括的普遍性
- 2 含意的普遍性
- 3 前提的普遍性
- 4 包含的普遍性

■解答■

問題 1

問 1 1、問 2 4、問 3 3、問 4 2、問 5 4

問題 2

問 1 3、問 2 2

参考文献

- 東照二(1997)『社会言語学入門ー生きた言葉のおもしろさにせまる』研究社
- 佐治圭三・真田信治(2004)『改訂新版日本語教師養成講座 テキスト2 言語一般』ヒューマンアカデミー
- スティーブン・ピンカー(1995)『言語を生み出す本能 [下]』日本放送出版協会
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 町田健(1987)『NAFL日本語教師養成プログラム5 言語学の基礎』アルク
- 町田健・靱山洋介(1995)『日本語教師トレーニングマニュアル3 よくわかる言語学入門 解説と演習』バベル・プレス
- 日本語教育学会編(2005)『新版 日本語教育事典』大修館書店
- リンゼイ・J・ウェイリー(2006)『言語類型論入門ー言語の普遍性と多様性』岩波書店
- ウィキペディア「キープ (インカ)」 : <http://goo.gl/nrfrM>
- 総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所 :
<http://www.stat.go.jp/data/sekai/h5.htm>
- UNESCO Atlas of the World' s Languages in Danger :
<http://www.unesco.org/culture/languages-atlas/index.php>